

5月の行事報告 May

親鸞聖人降誕会・門信徒総永代経法要 5月19日(日) 11時～、13時～

◆親鸞聖人降誕会・門信徒総永代経法要に出席して

5月19日(日)午前11時から親鸞聖人のお誕生をお祝いする降誕会法要です。まず行事鍾がなる間に婦人会の方の献灯・献花です。そして勤行(お勤め)は讃仏偈そして「宗祖降誕会のうた」を歌いました。法話は、山崎龍明師(武蔵野大学名誉教授・法善寺前住職)でした。

山崎師のご出講は久しぶりですが、中原寺でのお話しを大変喜んでいらっしゃるようにお見受けしました。まず親鸞聖人の「鏡」、「安城」、「熊皮」の御影3枚を説明されました。そして「臨終の善悪をもうさず」「信心定まるとき往生また定まるなり」と示されたことは当時としては大変なことであったとお話になりました。さらに聖人も当時の世相は、僧侶も庶民も「卜占祭祀(うらない、まつり、おはらい)つとめとす」と嘆かれているが、われわれも「お願いの念仏」「精神修養の念仏」「単なる感謝の念仏」でなく、「真実の姿を教えて頂く智慧の念仏」でありたいものとお話になりました。

午後1時から永代経法要です。勤行は正信偈、法話は午前前に引き続き山崎師です。聖人は「信心」を「まことのこころ」と

言われたが、迷信は迷心であり無知から生まれるのではなく、我欲から生まれるのだと。また亡くなることは悲しいことだが、聖人が明法房の“往生はめでたきこと”と言われたのも、仏様の教えを頂いて人生を生きられた方、仏のさとりを頂く身となって真実浄土の世界にお生まれになったから、と示されました。

この法要について、他宗では祠堂経と称して先祖供養を中心に行なうが、浄土真宗では永代経といって、亡くなった方々から尊いご縁を頂いて、諸々のことを学ばせて頂くのであると教えて頂きました。ユーモアを交え蘊蓄のあるお話しで、時間のたつのを忘れてしまいました。

住職のご挨拶で、鶯が盛んに「法を聞けよ!」と啼いていた、連休中に東北へ家族旅行をしたがまだ災害の傷跡が多く残っていたこと、永代経の趣旨からも今日のお話を家族に伝えてほしい、と述べられました。(河合 功 記)



新人会員紹介



この度、壮年会に入会させていただきました鈴木純一と申します。人との繋がりは『縁で始まり相性で続く』と申します。私は68歳になりましたが今までたくさんの人にご縁をいただき、なんとか生きてまいりました。今回、中原寺の壮年会にご縁をいただき大変ありがたく思っております。

私は長男ですので本来であれば家を継ぐはずでしたが、訳あって家は弟(次男)に継いでもらいました。2016年にお寺とのお付き合いを考え、家内の実家が浄土真宗の門徒であったこともあり中原寺に入門させていただきました。市川には50年以上住んでおり、現在は宮久保に住んでおります。

仕事はほぼリタイアしておりますが、まだやり残したこともあり、入門以来、行事になかなか出席できませんでした。今後はなるべく参加できるようにいたします。今まで仏事には全く縁のない生活をしておりましたが、今後、少しずつ学んでまいりたいと思います。ご指導よろしく願いいたします。

(鈴木 純一 記)

訃報のご案内

井山 祐一 様/平成30年11月16日に往生されました。
謹んで哀悼の意を表します



始めまして。本年(平成31年)4月に入会いたしました、市川市国分に住んでいます、山根幹雄(57歳)と申します。千葉県立農業大学の経営学の講師をしています。

中原寺さんとのご縁をいただいたのは、前住職の講座「和讃に学ぶ」を聴聞させていただいたのが最初です。「初めての方もお気軽にご参加ください。」とある中原寺さんのホームページを見て、思い切って山門をくぐりました。

浄土真宗とのご縁は、私の実家が浄土真宗本願寺派だったことです。私は仕事から経営学を学んでいます。経営学を理解するためには、経済学を学ぶ必要があり、経済学を理解するには社会学・心理学・人類学を学ぶ必要があり、さらには哲学を学ぶ必要がありました。

しかしそれでも結局は経営学のことも、人間のことも、社会のことも、自分のことも、まったく理解できませんでした。

しかし仏教の中に私を導いてくれる智慧を感じて独学している時に、中原寺さんとのご縁をいただきました。

そしてこの度、壮年会に参加するご縁をいただきましたことを、こころから感謝しています、壮年会の皆様、どうぞよろしくお願ひいたします。

(山根 幹雄 記)

編集後記(壮年会だより：令和元年6月「春夏号」会報)

今年から年2回発行となりました。壮年会も新会長の元、新体制で発足し、編集委員も原山建郎氏に加わってまいりました。また2名の新会員のご紹介ができました。新会員を迎えることは、誠にうれしく、心強く感じます。

Cyugenji Sounen-kai Dayori
壮年会だより

令和元年6月 春夏号 中原寺仏教壮年会だより Vol. 27



本庶佑氏の著書『いのちとは何か』は、高校時代からの親友に紹介されたご本です。むつかしい遺伝子や免疫の働きなどはさておき、親鸞さんの「悪人正機」や「医師の役割が……宗教家の役割をも一部包含せざるを得ない状況」と指摘されています。“ビハーク医療団”です。そして「生老病死から人は逃れられず、人は皆これを背負って一生を歩み、願わくば天寿に至る。釈迦の鋭い洞察力は今日の生命の思想にも生きている」と。驚くと同時に、優れた医学者は宗教者と通底するものがあると感じた次第です。

【住・職・閑・話】



5月1日より元号が「令和」となりました。この数ヶ月、テレビや雑誌では平成時代を振り返る特集や新元号が何になるのか予想するような特集が数多く紹介されていました。そして新元号が発表されるや否や「令和」の字をほどこしたお菓子が売り出されたり、われ先と「令和」の入った会社名を登録する人があらわれたり、新元号を祝うセールが催されたりしました。まさに日本中が「令和」フィーバーといったこの数か月であります、極めつけは明治神宮において令和初日に「令和元年五月一日」と記帳された御朱印をもらうために多くの人が行列を作り、一時は「10時間待ち」の看板も掲げられたそうです。

この御朱印にまつわる騒動は、今回だけに限ったことではないようです。数年前にテレビで御朱印が紹介されてから、じわじわとこの御朱印ブームが過熱し、散歩番組などで神社仏閣に参拝したときに芸能人が自らの御朱印帳に記帳してもらうことも目にします。現在では文具店で色とりどりの御朱印帳が並び、「御朱印ガール」と呼ばれる女性を中心によく売れているそうです。

しかし急激なブームの到来に参拝者のマナーが追いついていないようで、一人ひとり丁寧に誠心誠意心をこめて記帳されている寺社側に対して「一人に何分かけているんだ」「遅い」「段取りが悪い」などとクレームを入れる参拝者が出てきたとのことです。御朱印とは、もともと、写経を奉納したあかしとして寺社からいただく証書を指していました。寺社の名称とご

本尊やご神体の名前をしたため、当日の日付を入れた半紙に朱で押印してもらうため、「御朱印」と呼ばれてきたという由来があります。現代では、写経を納めなくとも、参拝のしるしとして志納金や初穂料を納めることで御朱印をいただくことができます。

そのことが本来、信仰のあらわれでもあった御朱印が単に参拝記念のスタンプラリーのようになり、そのことから主客転倒して本堂や本殿に参拝することなく、御朱印をもらうことが何よりも大事となっている方がいたり、人気の寺社の御朱印が転売されることもあります。お寺はなにか達成感を満たす場所でしょうか。これだけ集めたら何か良いことがあるだろうとか、尊く立派なことをしたのだとか、と自らの損得に振り回されているだけならば世間の道理となら違いはありません。

念仏者は無碍の一道なり。『歎異抄』

私たちは自分にとって都合が合うか合わないかによって物事を区分して、「自分に都合が合うことが良いこと、自分に都合が合わないことが悪いこと」と判断して悪いことから目を背け、排除しようとしながら日々を過ごしています。しかし、それは自分の物差しによってすべてのものを判断しているあまりに身勝手な生きかたです。

仏さまからの智慧のはたらきに導かれ、自らの身勝手さの闇が照らされることが念仏のみ教えであり、そのことこそが念仏によって開かれる、何ものにもさまたげられることがない一道です。

1月の行事報告 January

壮年会年次総会・新年会 1月27日(日) 2時半～

◆新年度の壮年会について

4月中旬の頃は、穀物に恵みの雨、穀雨が降り注ぐと申しますが、今年は天候が不順であり、雨が少なく寒さが残ったりまた急に暑い日があったり、また遅霜の心配やらがありました。私も少しばかりの家庭菜園で素人ながら朝夕作業を行なっていますが、どの作物も育ちが悪く心配です。

壮年会は、1月27日に総会を開き、石井会長年頭のご挨拶のあと、議案の説明があり最後に平成31年(令和元年)度役員改選がありました。新会長に山奥努さん、副会長に多田羅さんと私が留任、新たに盛田好一さんに加わってまいりました。

新理事に原山建郎さんに加わってまいりました。山奥新会長に代り、副会長の多田羅氏が挨拶と抱負を述べられ、平成31(令和元)年度が始まりました。「仏教壮年会目標と方針」を理解して各活動に参加して頂き、令和元年の壮年会を大いに盛り上げたいものです。

尚、壮年会法座につきまして、事前にテーマその他をご案内して、一人でも多くの方の参加をお願いするつもりです。

また中原寺の大事な法要法座にもお参りしたいものです。 合掌

(村田 太喜夫 記)

